

奈良市は奈良県の県庁所在地ですが、奈良県のほぼ北端の、京都府南端寄りに位置しており、地理的には奈良県の中心ではありません。

実は、奈良県のなかで大きな割合を占めているのは南部の吉野です。

今回の高の原カルチャーサロンでは、吉野にスポットを当てました。

奈良をフィールドに教育研究活動を展開している奈良大学のスタッフが、最新の研究成果も踏まえながら吉野の豊かな風土や歴史、代表的な産業である林業、そして独特の方言など、吉野の様々な姿をご紹介します。

奈良の北端かつ京都の南端にある高の原地域にお住まいの皆様には、今回の講座をきっかけに、奈良の多様性、そして深遠さに、さらに関心を深めていただけたら幸いです。

吉野の風土

地域観とことば

第17回 高の原カルチャーサロン

全3回

第1回

令和5年

9/2(土)

地図に描かれた吉野

—イメージと地域空間—

奈良大学文学部長・教授

土平 博

第2回

令和5年

9/9(土)

吉野が拓く森林と山村の未来

奈良大学総合研究所・特別研究員

岡橋 秀典

第3回

令和5年

9/16(土)

奈良県吉野地方における方言の特異性

—奈良県北部方言との比較を通して—

奈良大学文学部・教授

岸江 信介

場 所 奈良市北部会館 市民文化ホール 開講時間 10:00~11:30(開場9:30)

定 員 100人

受講料 無料

主催:  奈良大学
NARA UNIVERSITY

共催: 社会福祉法人 奈良市社会福祉協議会
(奈良市北部会館市民文化ホール)

 CROSS OVER

企画: 奈良大学総合研究所

1 第2次 奈良市文化 振興計画
市民の文化に対する意識の高揚

3 第2次 奈良市文化 振興計画
地域の文化財の保存及び活用

10 第2次 奈良市文化 振興計画
文化の振興のための学術研究の拠点作り

吉野の風土—地域観とことば—

全3回

開講時間／10:00～11:30
(開場9:30)

第1回 9/2(土) 地図に描かれた吉野—イメージと地域空間—

9/2
令和5年

奈良県南部は、北部と異なる地理的特徴をもつ。近畿地方としてみれば、東西方向に広がる紀伊山地に位置づけられるが、その一方で、山々の頂点をたどっていくと南北に長い尾根筋がみられる。その尾根筋と尾根筋に挟まれた狭小な谷部およびその谷部の支脈に集落が点在している場合が多い。盆地の農村に対してこの地域の山村は全く異なる集落の様相を示している。特徴あるこの地域は、絵図や地図にどのように描き出されてきたのであろうか。実例を紹介しながら、吉野郡をとらえてみたい。

【プロフィール】

奈良大学文学部長・教授

土平 博 (つちひら ひろし)

〈専門分野／歴史地理学〉

近世大名の領地、陣屋とその町の形態を明らかにすることが研究テーマである。また、都市とその周辺農村の関係やその変化についても関心を持つ。そのほか近世絵図・近代地図にも興味を持っている。

代表的な著書は、「ジオ・パルN E 0第2版—地理学・地域調査便利帖—」(共著・海青社)、「和州郡山城下『町割図』の作成年代」など。

第2回 9/9(土) 吉野が拓く森林と山村の未来

9/9
令和5年

日本は世界的に見て山地の割合が高い「山国」である。しかも、この山地には古くから村が拓かれ暮らしが営まれてきた。しかしながら、これらの村々の多くは今日消滅の危機に瀕している。残念ながら、その実状は国民にあまり理解されていないようである。そこで、ここでは、歴史的に先導的役割を果たしてきた吉野の山村を対象に、「山の暮らし」の変化とその実態、さらにその将来像について、論じてみたい。言い換えれば、吉野の山村は今何を切り拓こうとし、何を指し示しているのか、について考える。

【プロフィール】

奈良大学総合研究所・特別研究員

岡橋 秀典 (おかはし ひでのり)

〈専門分野／人文地理学・農村地理学、インド地域研究〉

〈元奈良大学文学部教授、広島大学名誉教授〉

日本の農山村地域の変貌とそのメカニズムや、そこで生じている問題の解明を研究テーマとしている。また、現代インドを対象とした地域研究にも関心がある。

代表的な著書は、『現代農村の地理学』(単著、古今書院)、『台頭する新経済空間(シリーズ現代インド 第4巻)』(共著、東京大学出版会)など。

第3回 9/16(土) 奈良県吉野地方における方言の特異性—奈良県北部方言との比較を通して—

9/16
令和5年

奈良県吉野地方の方言を代表する十津川方言のアクセントは体系的に東京式アクセントであり、大阪・京都・奈良など、京阪系のアクセントとは大きくかけ離れる。また、これ以外にも音声をはじめ、文法的な特徴においても中国地方の方言との共通性がみられ、奈良北部の京阪方言とは大きく異なっている。奈良県北部と南部における、このような方言上の違いはいったいどのようにして生まれたのであろうか、この謎に迫りたい。

【プロフィール】

奈良大学文学部・教授

岸江 信介 (きしえ しんすけ)

〈専門分野／国語学、方言学、社会言語学〉(徳島大学名誉教授)

主に西日本諸方言の研究をテーマに、これまで近畿地方や四国地方の方言の研究を行ってきた。また、対人コミュニケーションにおける配慮をテーマとした研究、SNSで用いられる新方言の地理言語学的研究のほか、テキストマイニングによるテキストデータの分析の研究も行っている。

代表的な著書は、『地図で読み解く関西のことば』(共編著、昭和堂)、『実践方言学講座① 社会の活性化と方言』(共著、くろしお出版)など。

●お申し込み・お問い合わせ先

奈良市北部会館 市民文化ホール

〒631-0805 奈良市右京1-1-4 TEL:0742-71-5747 FAX:0742-71-5793
(休館日:毎週月曜日(祝日を除く)・祝日の翌日)

●お申し込み方法

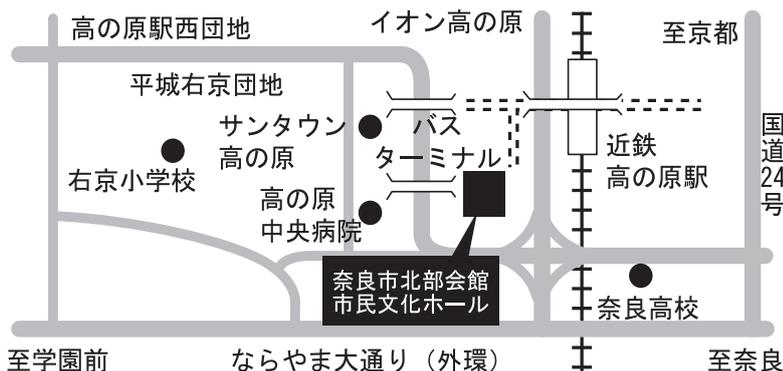
(A)「往復はがき」による申し込み ※往復はがき:126円
(往:63円、復:63円)

- ①講座名「高の原カルチャーサロン」②郵便番号、③住所、④氏名(ふりがな)、⑤年齢、⑥性別、⑦電話番号を記入の上「奈良市北部会館市民文化ホール」へ郵送してください。
※はがき1枚に1人限り。1枚で全講座3回分の受付です。

(B)「市民文化ホール備付用紙」と「返信はがき」による窓口申し込み

締切:令和5年8月23日(水)必着

(申込み多数の場合は抽選・定員に満たない場合は引き続き受付)



【アクセス】近鉄京都線「高の原」駅南へ徒歩5分

※駐車場は有料です。駐車スペースが少ないため、できるだけ公共交通機関をご利用ください。